

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立 鍋島中学校	
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導法改善の一貫として、校内研究会で全教員「主体的な学びの工夫」に力点を置いて取り組み、育成したい資質能力を「人と関わる力」や「自ら学ぼうとする力」であることを明確にして授業実践を行った。生徒の学習に対する前向きな態度や仲間や教師とのかかわりが増えた等の手ごたえが感じられるなど、一定の成果を得た。さらにICTやシラバスの活用と言語活動を充実させ、主体的な学びを促進していく。</li> <li>生徒の居場所づくりや開発的生徒指導の実践の成果として、集団の育成については一定の成果が見られたが、不登校対策として自己肯定感が高まるような取り組みや関係機関との連携及び支援体制の構築についてさらに推進していく必要がある。</li> </ul>	
2 学校教育目標	「自他を大切に し 創造性豊かに 自立した活動をする生徒の育成」	
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力の向上・・・鍋中学びあいによる魅力ある授業づくりと生徒の学習意欲を喚起する</li> <li>自己肯定感の醸成と高揚・開発的生徒指導の3機能を生かした取り組みで自信と希望をはくくむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個性の伸長・・・特別支援教育の視点をもち特性や多様なニーズに応じた支援を行う</li> <li>適切な人間関係の構築・支持的風土のある集団づくりを推進する</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践 ○「鍋中学び合い」を取り入れた授業実践	○全職員が「鍋中学び合い」を実践することで、授業の内容で分かることが増えたと実感する生徒が80%以上	・教科や学年をこえた相互授業参観を行う。 ・全国や県の学習状況調査、定期テストの無回答率を下げるために、自分の考えをもち、書く活動を授業の中で充実させる。	A	「鍋中学び合い」を取り入れた授業実践をし、96%の生徒が授業で分かることが増えたと感じている。また、研究授業を6本、2回目の参観weekを実施し、前回よりも参観授業数が増え、授業改善の推進につながった。	A	・学習状況調査の結果が公表されているが、地域や経済状況等が影響していることも少なからずある。 ・AIや情報化により考える場面が減ってきているのではないのか。	・学力向上コーディネーター ・研究主任
	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生徒及び教職員の人権・同和教育の理解を深め、生徒向けの「人との関わり」に関するアンケートで肯定的に回答した割合が80%以上	○平和集会や人権集会の実施、人権・同和教育に関する職員研修を行う。 ・学級・学年、生徒会、部活動、学校行事などあらゆる場面で人間関係を実践的に学習する場として指導する。	A	・人権集会や職員研修を行い、人権について考える機会を設定し、実施できた。中間アンケートでは94.1%の生徒が「相手の立場を考えた言動をしている」と回答していたが、最終アンケートでは95%を超え、意識の高揚がみられた。	A	・人権集会(講話)の内容によっては、リモートによる画面越しの視聴ではなく、対面の方が効果的な場合もある。	・生徒指導主事 ・道徳教育担当 ・人権・同和教育担当
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・月に1回、生活アンケートを行い、生徒の心に寄り添いいじめの早期発見に努める。 ・生徒会の生活委員によるいじめゼロ宣言を行い生徒の意識喚起を行う。	A	・気になる事案には、情報共有をしながら丁寧に対応した。 ・いじめ・いのちを考える日にはいじめゼロ宣言に加え、全校でいじめやいのちについて振り返るよう放送を入れて、生徒への意識喚起を行った。	A	・件数は昨年より減少しているが、件数よりもどのように対応したかを大切にしたい。 ・いじめに対する大人側の心得も大切である。 ・対人関係のねじれがストレスになりやすい子どもがいる。	・生徒指導主事 ・教育相談担当 ・生徒会担当
	●○生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒90%以上	○様々な場面で生徒の出番と役割が保証される取組を通して、努力と成長を承認・称賛し、生徒のやりがいと意欲を喚起する。 ・キャリア教育の充実と学びや挑戦することへの価値づけを図る。	B	・「よいところを認めてくれる」に93.2%、「努力したり頑張ったりしていることがある」に89.5%が肯定的回答であり、出番と役割が保証される取組を継続していく。 ・「夢や目標を持っている」の肯定的回答が77.5%であり、多様化・複雑化している現代社会の中で夢や目標を持たせる指導を工夫する必要がある。	B	・全員が進学希望で進学への目標はもてるであろうが、社会情勢の変化により、価値観も多様化しており、夢や目標を見出しにくくなっているのかもしれない。	・各学年主任 ・進路指導主事
	○「自己指導能力の開発」を目指した生徒指導	○基本的な生活習慣の確立と好ましい学習環境の確保(生徒主体による生徒指導の実践と生徒支援体制の確立) ○「自己指導能力の開発」に関するアンケートにおいて「成長することができた」と回答する生徒80%以上	○集団指導と個別指導のバランスを図る。 ・生徒指導の3機能(自己決定の場を与える・自己存在感を与える・共感的な人間関係を育成する)を実施する。 ・三局面での指導(成長を促す指導、予防的な指導、課題解決的な指導)の実践を行う。	A	・承認プレートの認知度が増し、互いを尊重した評価やかかわりが見られるようになり、挑戦しようという気持ちの高まりがみられる。 ・自己指導力の一環として、「挨拶」「時間」の働きかけを行ったが、生徒と職員の意識にやや差がみられるため、生徒の内発的動機を高め、継続した取組を行っていききたい。	A	・承認プレートでは、行事で感動したことを言語化する取り組みはいい。保護者にも掲示板等で広くアピールしてもいいのではないのか。	・生徒指導主事 ・特別活動担当
●健康・体づくり	○「安全に関する資質・能力の育成」	○生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ○校内での生活事故の未然防止と危険予知能力の向上及び啓発	・生徒会の交通安全委員会による交通安全マナー向上に対する取り組みを行う。 ・施設的安全点検を定期・随時に行い、不良箇所については営繕や注意喚起を行う。	B	・交通安全ルールやマナー(規範意識)については、保護者は97%、生徒は98%が身につけていると回答しているのに対し、年間を通して、地域からご指摘を受けたので、更に学校全体でルールやマナー遵守の意識を高めていきたい。	A	・周辺の道路が狭いので、仕方がない部分もある。生徒は、ルールを守っていると思う。 ・朝の時間帯は、ドライバーも焦っている。新しい道ができた時に、様子をみて対応していく必要がある。	・生徒指導主事 ・安全教育担当 ・生徒会(安全)担当
	○健康を考えて行動できる力の育成	○健康安全に対する基本的な生活習慣を身につけ、自他の心、からだ、命を大切に育てる生徒の育成	・基本的な生活習慣の確立を図る。 ・自分のからだの異常に気づき、自分の状態を伝えることができる生徒を育てる。 ・けがや病気に対する自己管理能力をつける。	B	・保健委員会を中心に、生活習慣や感染予防行動のチェックを行った。今後は、活動内容や結果について保健だよりでさらに周知していきたい。 ・来室時、自身の生活を振り返らせ、必要時は個人指導をして担任と情報を共有した。	B	・特になし	・養護教諭 ・保健体育科
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限の遵守 ○部活動規則遵守100%と定時退勤日の設定と周知	・計画的な業務遂行と役割分担による業務の均衡化とOJTによる人材育成を図る。 ・複数顧問による部活動指導の負担軽減、定時退勤日の励行による在校等時間の縮減を図る。	B	・組織ごとの役割分担が定着し、協力体制ができている。スムーズな業務遂行につながっている。 ・定時退勤日が形骸化しつつある。 ・部活動規定に沿った指導を行っている。今後は、佐賀モデルの実施について検討していく。	B	・教員不足、補充教員がない等の現状を打破するために、ブラックなイメージを改善していく必要がある。 ・部活動の専門外の指導負担の軽減のためにも地域展開等を進めていきたいが、人材、経費、場所、施設等周囲からの支援も必要で、学校だけでは難しい。	・管理職
	○環境整備	○業務改善リーダーによる話し合いで提案と改善の実施 ○在校等時間の時間管理の呼びかけと縮減(昨年比)	・校時程見直しを検証し、会議時間と内容の精選を図る。 ・フォルダや文書、身の回りの整理整頓をする。 ・ペーパーレスによる作業時間の削減を図る。	B	・今年度の実績を踏まえ、来年度に向けての業務改善を進めている。会議の内容と進め方、時間の確保が今後の課題である。 ・年度末に向けてフォルダの整理を進めていく。 ・業務改善の話し合いがまだ、できていない。	B		・管理職
●特別支援教育の充実	○生徒支援のための校内体制づくりの充実	○特別支援教育委員会の定期的な開催	・保護者の理解・同意のもと、「個別的教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成し、全職員で情報共有を行い、生徒一人一人の支援にあたる。 ・特別支援教育委員会は隔週、校内支援会議は定期的に開催し、確実に情報共有の場を設定する。 ・個に応じた対応ができるように、校内支援体制の充実を図る。	A	・「個別的教育支援計画」と「個別の指導計画」を活用して、本年度の振り返りと来年度への引継ぎを行い、保護者面談で情報共有をしながら個に応じた支援の充実を図った。 ・隔週の特別支援教育委員会や定期的な支援会議で情報共有や研修を行い、適切な支援の在り方の確認や円滑な教育活動の実践に取り組んだ。	A	・特になし	・特別支援コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
○不登校対策	○不登校生徒数を減らすための取組の推進 ○不登校生徒が増えない取組の推進	○昨年度の不登校生徒の割合(647名中39名→6.0%)から減少 ○「鍋島中学校に入学してよかった」と回答する生徒80%以上	・教育相談委員会等を利用し、生徒情報の収集、共有、対策を図り、全職員で対応に当たる。 ・専門機関等との密な連携や小中連携を図り、助言や面談を随時実施する。 ・いじめアンケート結果を利用し、問題の早期発見、早期対応に努める。	A	・鍋中に入学してよかったと答える生徒が96%であり、学校生活や人間関係等が良好な生徒が多いと考えられる。 ・不登校生徒は1月段階で34名であり、昨年度よりも割合は減少した。(6.0%→5.1%) ・3年生の進路は、ほぼ確定した。	A	・高校も多様化し、不登校の生徒たちも受け入れてもらっているのでも、それぞれの状態に応じた学力保障も大事である。	・教育相談担当 ・各学年主任・教育相談担当
●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育								
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>「鍋中学び合い」の学習スタイルは生徒・教師ともに定着して、一定の成果が見られているので、学び合いにおける「人との関わり」や1人1台端末の活用、アウトプットする活動の深化を図る。</li> <li>自己指導力開発のための「承認ボード」や「挨拶」「時間」の取り組みが、徐々に広がって生徒の意識や行動の変容につながってきている。学習指導と生徒指導をつなぎながら、相乗効果を図る。</li> <li>職員の情報共有のもと、個々の生徒への指導・支援に努めた。特別支援教育の充実と不登校対策の一環として、関係機関との連携や支援体制の強化を図り、生徒の社会性の醸成と学力保障に努める。</li> <li>体育館改修に伴う対応については計画的に職員周知を行い、できるだけ円滑に進める。</li> </ul>							